

## 令和6（2024）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	イボダイ	対象水域	太平洋中・南部
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合研究センター、神奈川県水産技術センター、静岡県水産・海洋技術研究所、愛知県水産試験場漁業生産研究所、徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課、高知県水産試験場、宮崎県水産試験場	協力機関名	

## 1. 調査の概要

千葉県、神奈川県、静岡県、愛知県、徳島県、高知県および宮崎県が過去に遡ってまとめた主要港または主要漁協における水揚げ量を集計し、各県における漁獲状況を把握した。さらに、太平洋中部・南部沖合底びき網漁業（以下、沖底）漁場別漁獲統計に基づき、太平洋中部・南部の1そうびき沖底および太平洋南部の2そうびき沖底による漁獲状況を調べた。以上の情報より、対象水域における現在の漁獲動向を判断した。

## 2. 漁業の概要

千葉県では小型底びき網（以下、小底）、沖底、まき網、定置網などで漁獲される。主要漁協（地区）における漁獲量は2004年以降、1.7～15.8トンの間で推移している。近年では、2015年の2.4トンから2019年の11.7トンに増加した後は7トン前後で推移しており、2023年の漁獲量は7.8トンであった（図1、表1）。

神奈川県では、主要港である東京湾側1港（柴）と相模湾側3港（三崎、大楠、真鶴）における漁獲量が把握されている。漁獲量は、東京湾側では2015年の28.3トンから2021年の0.6トンにかけて、相模湾側では2016年の11.7トンから2022年の0.7トンにかけて減少した。以降はやや増加しており、2023年の漁獲量は東京湾側では6.7トン、相模湾側では2.7トンであった（図2、表1）。

静岡県では主に定置網で漁獲され、伊豆東岸定置網7か統漁獲統計が利用可能である。本統計に基づく漁獲量には大きな年変動が認められ、2000年以降では、2002年に59.0トン記録した後は概ね1～15トンの間で増減を繰り返している。2023年の漁獲量は前年を上回る3.9トンであった（図3、表1）。

愛知県では、主に伊勢湾小底で漁獲される。主要港（豊浜）における2000年以降の漁獲量は、2002年の79.6トンから2005年の2.9トンへ減少した後、2017年までは2.1～26.6トンの間で増減した。2018年以降2021年までは1トン未満で推移したが、2022年には5.1トン、2023年には8.2トンとなり、2年連続で増加した（図4、表1）。

徳島県では、主要漁協（徳島市、椿泊）において底びき網による漁獲量が把握されている。各主要市場における漁獲量の変動傾向には相違が認められる。漁獲量の合計値に

については、2008年の74.1トンピークとして、増減を伴いながらも2019年の7.1トンまで減少した。以降は増加傾向を示しており、2023年の漁獲量は45.4トンであった（図5、表1）。

高知県では、主に大型定置網で漁獲される。県漁協計の漁獲量は2010～2022年まで3トン未満で推移したが、2023年は前年までを大きく上回る32.3トンの漁獲があった（図6、表1）。

宮崎県では主要漁協における漁獲量が把握されている。2023年漁獲量は0.7トンであった。

太平洋中部・南部における沖底の対象種となっている。太平洋中部における1そうびき沖底の漁獲量は、2000年の76.2トン以降、3.2～28.6トンの間で増減を伴いながら推移している。2018年の10.3トン以降、減少傾向が続き、2021年と2022年の漁獲量はそれぞれ3.2トンと3.3トンであったが、2023年の漁獲量は増加し11.2トンであった（図7、表2）。太平洋南部における1そうびき沖底の漁獲量は2022年までは1トン未満で推移してきたが、2023年には3.0トンの漁獲があった（図8、表2）。太平洋南部の2そうびき沖底による漁獲量は、2000年の591.4トンから2010年の54.3トンにかけて減少した。その後は増減を繰り返しており、2021年には25.5トンと2000年以降で最も少ない漁獲量となったが、2022年以降は増加しており、2023年の漁獲量は72.1トンであった（図9、表2）。

### 3. 生物学的特性

(1) 分布・回遊：北海道～九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、北海道～九州南岸の太平洋沿岸、瀬戸内海、東シナ海大陸棚域；朝鮮半島西岸南部・南岸・東岸、中国南シナ海沿岸に分布する（中坊・土居内 2013、中坊 2018）。幼魚は表層性でクラゲの下、成魚は大陸棚上の底層に生息する（中坊・土居内 2013、中坊 2018）。

(2) 紀伊水道産の本種においては以下の成長式が得られている。以下の式においてBLは標準体長（mm）を指す。各齢での標準体長は1歳で14.5 cm、2歳で17.4 cm、3歳で19.4 cm、4歳で20.8 cmになる（坂本・鈴木 1974）。

$$BL_t = 243.2 \left( 1 - e^{(-0.34(t+1.674))} \right)$$

(3) 成熟・産卵：産卵期は4～8月。産卵場は日向灘、豊後水道、紀伊水道、山口県沿岸、長崎県沿岸にある。雌は体長15 cm前後（全長18～19 cm）で一部が、16 cmで大部分が産卵に加わる（山田ほか 2007）。

(4) 食性：オキアミ類、サルパ類、クラゲ類、カイアシ類を捕食する（中坊 2018）。

### 4. 資源状態

漁獲量に関する情報は比較的長期的かつ広域的に得られているが、いずれの漁業種類においてもイボダイは必ずしも主対象魚種とはなっていないと考えられる。このため、本種に対する実質的な漁獲努力量の把握が困難であり、資源量指標値は得られていない。ここでは、各県および太平洋中部・南部における1そうびき沖底および太平洋南部における2そうびき沖底の直近5年間（2019～2023年）の漁獲量変動に基づき、現在の漁

獲動向を判断した。

対象水域内における漁獲量の変動傾向には県ごとの相違が認められるが、直近5年間（2019～2023年）の漁獲量は千葉県と神奈川県を除き、増加傾向にある。特に、直近年（2023年）の漁獲量はいずれの県においても前年を上回った。また、沖底においても漁獲量の変動傾向には海域または漁法（1そうびき、2そうびき）による差異がみられるが、直近5年間（2019～2023年）の太平洋中部と南部の1そうびき沖底では増加傾向、太平洋南部の2そうびき沖底では概ね横ばい傾向であった。以上のことから、対象水域全体における現在の漁獲動向は増加と判断される。

## 5. その他

本資源では資源量指標値が得られておらず、資源の水準・動向の判断には、網数や漁区数の情報も利用可能な沖底統計に基づく解析が重要である。今後、当該漁業における主要魚種を対象とした操業の影響を十分に考慮した資源量指標値の開発が必要である。さらに、本種の生物学的特性や資源構造には不明な点が多く、今後も継続した情報の収集が不可欠である。

## 6. 引用文献

- 中坊徹次・土居内 龍 (2013) イボダイ科. 「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」中坊徹次編, 東海大学出版会, 秦野, 1078.
- 中坊徹次 (編) (2018) 日本魚類館 : 精緻な写真と詳しい解説. 小学館, pp. 326.
- 坂本俊雄・鈴木 猛 (1974) 紀伊水道産イボダイの年齢と成長. 日本水産学会誌, 40, 551-560.
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次 (2007) 水産総合研究センター叢書 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, pp. 860-864.

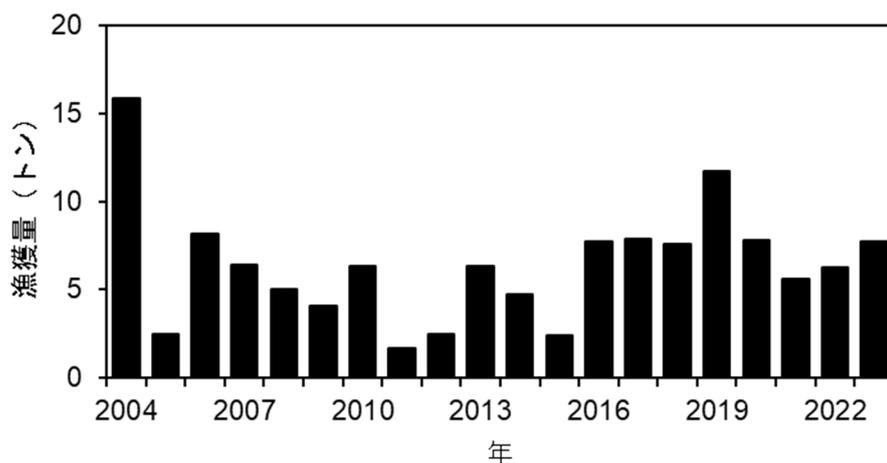


図1. 千葉県の主要漁協（地区）における漁獲量の推移

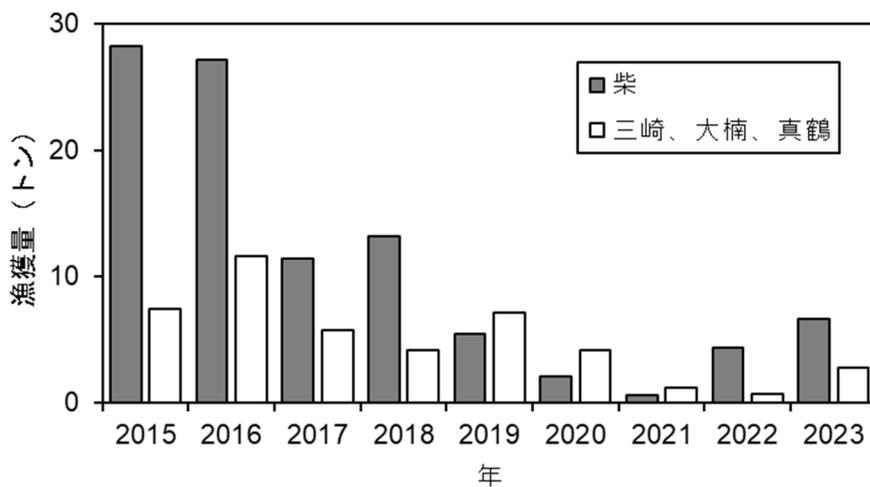


図2. 神奈川県的主要港における漁獲量の推移

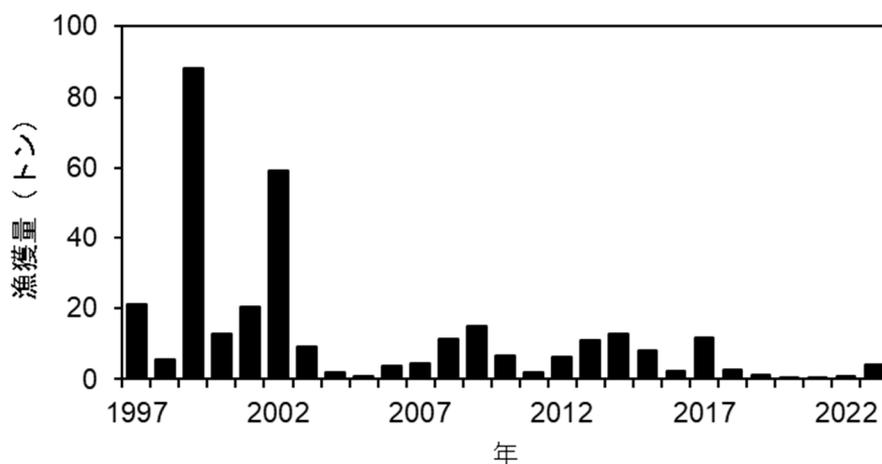


図3. 静岡県の伊豆東岸における定置網による漁獲量の推移

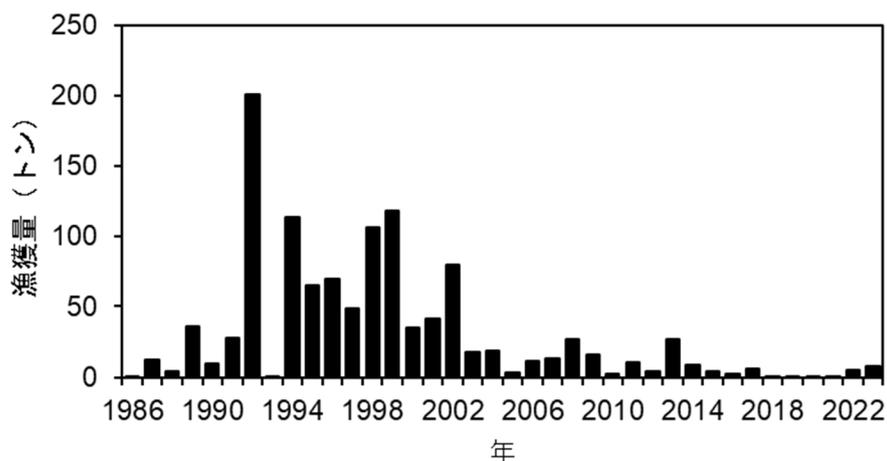


図 4. 愛知県の主要港（豊浜）における漁獲量の推移

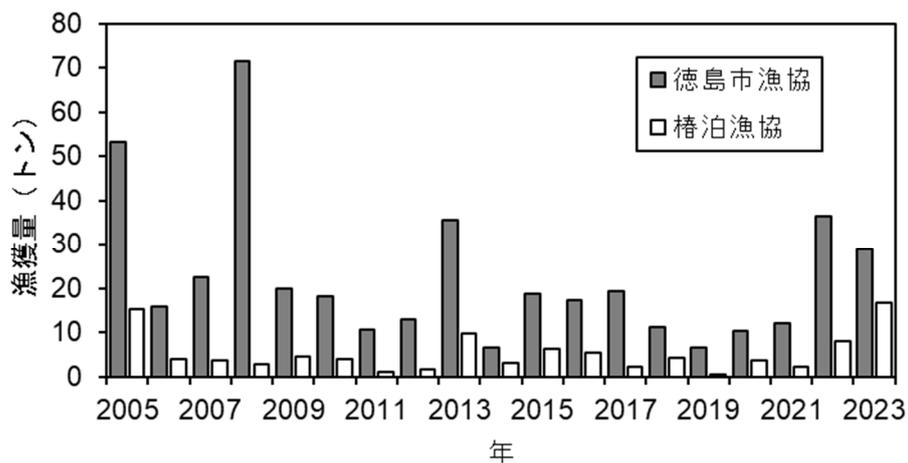


図 5. 徳島県の主要漁協における漁獲量の推移

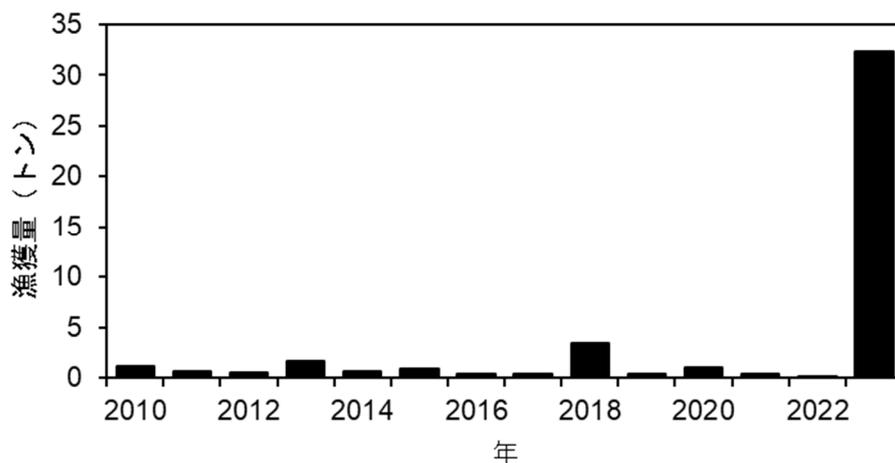


図 6. 高知県における漁獲量の推移（県漁協計）

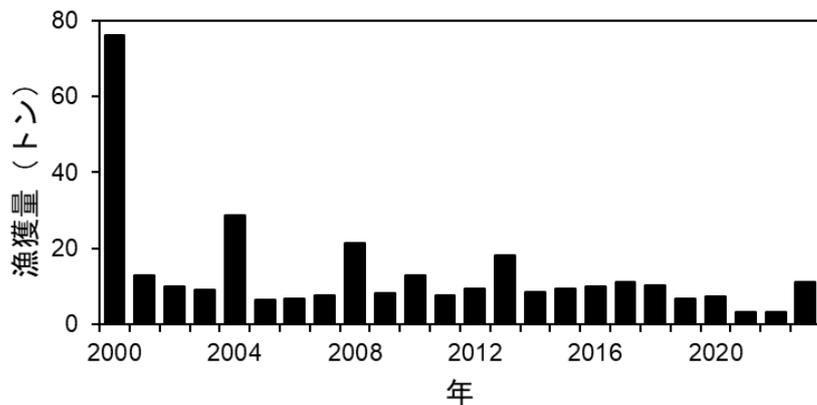


図 7. 太平洋中部の 1 そうびき沖底による漁獲量の推移

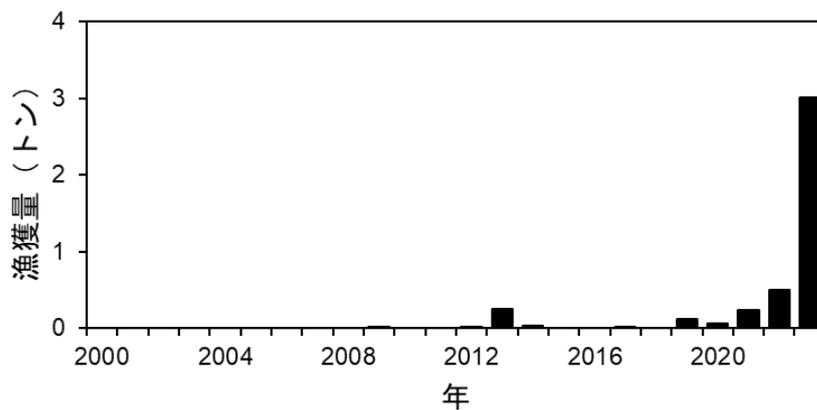


図 8. 太平洋南部の 1 そうびき沖底による漁獲量の推移

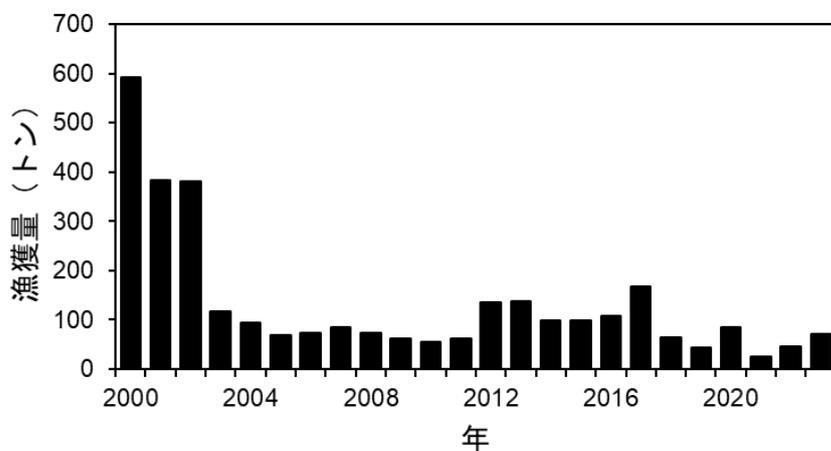


図 9. 太平洋南部の 2 そうびき沖底による漁獲量の推移

表 1. 各県における漁獲量（トン）の年変化

年	千葉県	神奈川県		静岡県	愛知県	徳島県		高知県
		柴	三崎、大楠、 真鶴			徳島市	椿泊	
1986					0.1			
1987					12.6			
1988					4.4			
1989					36.0			
1990					9.9			
1991					27.7			
1992					200.5			
1993					0.6			
1994					113.7			
1995					64.9			
1996					69.4			
1997				21.0	48.4			
1998				5.5	106.8			
1999				88.1	118.6			
2000				12.8	34.6			
2001				20.4	41.4			
2002				59.0	79.6			
2003				9.2	17.3			
2004	15.8			2.0	18.2		1.6	
2005	2.5			0.8	2.9	53.3	15.3	
2006	8.2			3.9	11.3	15.9	3.9	
2007	6.3			4.6	13.6	22.4	3.8	
2008	5.0			11.3	26.6	71.4	2.8	
2009	4.1			14.8	15.8	20.0	4.5	
2010	6.3			6.6	2.8	18.1	3.9	1.1
2011	1.7			2.1	10.9	10.6	1.2	0.7
2012	2.4			6.3	3.9	13.0	1.6	0.4
2013	6.3			10.9	26.6	35.6	9.9	1.7
2014	4.7			12.8	8.5	6.6	3.2	0.7
2015	2.4	28.3	7.4	8.0	4.2	18.7	6.3	0.9
2016	7.7	27.2	11.7	2.3	2.1	17.4	5.3	0.3
2017	7.9	11.4	5.7	11.8	5.5	19.3	2.1	0.4
2018	7.6	13.2	4.2	2.6	0.4	11.3	4.2	3.4
2019	11.7	5.4	7.1	1.3	0.8	6.6	0.5	0.4
2020	7.8	2.1	4.2	0.6	0.3	10.4	3.8	1.0
2021	5.6	0.6	1.2	0.3	0.0	12.2	2.1	0.3
2022	6.3	4.4	0.7	0.7	5.1	36.4	8.0	0.1
2023	7.8	6.7	2.7	3.9	8.2	28.8	16.6	32.3

千葉県は主要漁協、神奈川県は主要港（柴および三崎、大楠、真鶴）、静岡県は伊豆東岸における定置網、愛知県は主要港（豊浜）、徳島県は主要漁協（徳島市、椿泊）、高知県は県漁協計の漁獲量を参照。

表 2. 太平洋中部・南部沖底による漁獲量（トン）の年変化

年	1そうびき		2そうびき
	太平洋中部	太平洋南部	太平洋南部
2000	76.2	0.0	591.4
2001	13.0	0.0	384.4
2002	10.1	0.0	380.5
2003	9.1	0.0	116.3
2004	28.6	0.0	93.8
2005	6.6	0.0	68.4
2006	6.7	0.0	73.0
2007	7.7	0.0	84.5
2008	21.4	0.0	73.5
2009	8.2	0.0	62.9
2010	13.0	0.0	54.3
2011	7.8	0.0	61.5
2012	9.4	0.0	136.5
2013	18.2	0.2	138.6
2014	8.6	0.0	99.1
2015	9.5	0.0	97.8
2016	10.0	0.0	108.0
2017	11.1	0.0	168.5
2018	10.3	0.0	64.3
2019	6.7	0.1	44.4
2020	7.5	0.1	86.1
2021	3.2	0.2	25.5
2022	3.3	0.5	47.0
2023	11.2	3.0	72.1